



# 株式会社 はてな

## Adobe Creative Cloud グループ版 導入事例

Creative Cloudとタッチデバイスでよりクリエイティブな制作環境へ

### 株式会社 はてな

2001年7月、京都にて設立。「人力検索サイトはてな」のサービスを開始し、注目を集める。更新チェックツール「はてなアンテナ」、ブログサービス「はてなダイアリー」など消費者向けのサービスで認知度をさらに高め、2005年にリリースした「はてなブックマーク」は同社の看板ともいえるブランドとなっている。



アートディレクターの種村司氏。シンプルで美しい「はてな」のインターフェースデザインの全社的な設計・監理の担当者。製品ごとのデザイナーを統括する。



デザイナーの川上淳氏。同社の主力サービスである「はてなブックマーク」のUIや機能のデザインを担当しているほか、ノベルティなどのグッズのデザインも行っている。

日本最大級のソーシャルブックマークサービス「はてなブックマーク」をはじめ、ブログ、Q&Aサービスなど、インターネットメディア事業を展開している株式会社はてな（以下、はてな）。同社はインターネット技術によって、ユーザーの「知る」や「つながる」といった体験を広げて人々の生活をより豊かにし、社会の発展に貢献することを目指している。メディア事業による広告収入が主な収益源であるが、近年は、はてなの高い技術力や進歩的な企画を提案する力などが高く評価され、大手企業との協業のケースも増えている。

### ■Creative Cloudグループ版 導入の背景と課題

#### ・「はてなブックマーク」のインターフェースデザインは、主としてIllustratorで

ソーシャルブックマーク、Q&Aサービス、ブログなど、各種のインターネット関連事業を展開しているはてなといえば、先進的な技術者の集団といったイメージが強いかもしれない。しかしながらその各製品の「使い易さ」に大きく貢献しているのがデザインである。

広報・マーケティング部リーダーの山田聖裕氏は、「はてなでは開発業務は開発者に、デザインはデザイナーに裁量を任せており、アートディレクターの種村、デザイナーの川上には非常に助けられています」と話す。

テキストやアイコンを中心とした「シンプルな美」を感じさせる、はてなの製品群。これらの製品のデザイン業務について、種村司氏は次のように話す。「当社のデザイン部門は東京に3名、京都に5名の8人体制です。デザインのチームは開発部に属し、日々、開発者とやりとりをしながら製品の理想的なインターフェースなどを検討しています」。

「はてなブックマーク」のデザイン担当の川上淳氏は、デザイン業務について「Webデザイン、GUI設計はまずIllustratorで行います。私自身がもともとグラフィックデザイナーでありIllustratorを主に使用してきたことも理由ですが、Illustratorで完結するスタイルで制作しています。特に近年は、アップル製品の『Retinaディスプレイ』のように高解像度の画面が増えていますので、ベクターデータを扱うIllustratorでのデザインは現状に最適です」と説明する。デザインが完了し、画像を切り出すところまでIllustratorを使用し、コーティングは一般的なエディターツールを使用している。

種村氏も「将来的なことを考え、ベクターデータで作成する方が安心だと感じています。もちろんPhotoshopを愛用する開発者もあり、各自が最も使いやすいツールをそれぞれカスタマイズして使っています」と補足する。

#### ・現場の負担となっていたライセンス管理業務

はてなでは、アドビ製品のバージョンがリリースされるたびにアップデートを繰り返してきた。「従来は、ライセンス管理が非常に手間になっていました。アドビ製品を業務で必要とするスタッフの人数を把握し、インストールするPCの管理などはデザイン部門で行っていたため、ユーザーが入れ替わるたびにライセンスの付与などの業務が発生し、業務効率を圧迫していたのです」（種村氏）

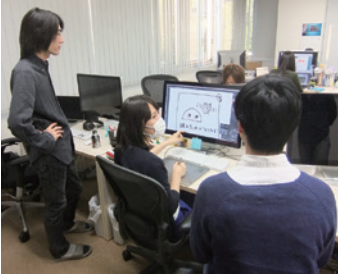
### ■導入後の成果

#### ・統合された製品管理と簡単になったライセンス管理

「Creative Cloudを使い始めて2年ほどになりますが、登場した当初はUIの刷新が印象的でした」と種村氏は振り返る。川上氏も「スタイライズから設定していた角丸が変形パネルから簡単に設定できるようになるなど、細かな機能改善が日々の作業効率を上げてくれます。また、当初からAdobe Ideas（後継製品はAdobe Illustrator Draw）などのアプリ展開にも興味があり、今ではデザインのイメージを考えるとときに愛用しています」と語る。



広報・マーケティング部リーダーの山田聖裕氏。はてなではSNSやCGMなどの分野で信用を高めたことにより、近年は企業とのタイアップや協業も増えていると話す。



デザインの業務では主にPhotoshop、Illustratorを使用。モバイル端末とデスクトップPC、クラウド環境をシームレスに連携させて業務を行う。

種村氏は、Creative Cloudになったことで「自動で配信されるアップデートと、統合された管理が実現し、非常に便利になりました」と話す。「各ユーザーが利用している製品のアップデートの足並みがそろい、とても便利だと感じています。製品が統合されていることで、リーフレットを作成する必要があるときなど、気軽にInDesignを使用できるようになりました。大変助けられています」（種村氏）。

なにより、ライセンス管理の負担軽減が大きいメリットだと種村氏は言う。「パッケージ単位で管理していた以前と比べ、Creative Cloudグループ版になったことでライセンス管理が非常に容易になりました。オンラインで決済するクラウド関係の製品の利用も社内で増えているため、現在では総務部が一括して管理しています。現場のデザイン部門にとっては、負担軽減につながっています。総務部でもライセンスを持ち、ちょっとした名刺の文字の変更などは総務部でも対応できるようにしています」（種村氏）。

## ■今後の取り組み、展望

### ・モバイルやオンラインストレージにも期待

Creative Cloudグループ版の導入以前から個人ユーザーでもあった川上氏はCreative Cloudのオンラインストレージなどにも期待していると話す。「アプリケーションとのシームレスな連携が可能になるので、快適に利用できるなら今後はより積極的に利用してみたいと思います」（川上氏）

### ・よりクリエイティブなワークスタイルを生む

種村氏はタブレット端末とCreative Cloudの利用によってワークスタイルが変わったと言う。「あまり紙は使わず、タブレットを持ち歩いてIdeasなどを使ってラフを描きます。そしてPhotoshopやIllustratorにデータを移して仕上げます。データとして保存しておき、いつでも使えることを重視しているのです」。

川上氏も同様のメリットを重視している。「タッチデバイスを利用でき、いろいろなアプリケーションを使えることは大きいと思います。デザイナーは今後、Creative Cloudとタブレットの組み合わせによって、できることがどんどん広がっていくでしょう。アプリケーションに触れることでアイデアが生まれ、そのアイデアをCreative Cloudで加工して仕上げる。今まではデスクトップPCのIllustratorだけで作っていたデザインを、あえてタブレットで作業して、異なる素材を組み合わせることで新しい発想につながります。Creative Cloudから生まれる新しいワークフローには、とても可能性を感じています」と川上氏はCreative Cloudや日々進化するデバイスへ、熱く期待していると語ってくれた。

## 製品に関する詳細

[www.adobe.com/jp/creativecloud/](http://www.adobe.com/jp/creativecloud/)



アドビ システムズ 株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2  
大崎ゲートシティイーストタワー  
[www.adobe.com/jp](http://www.adobe.com/jp)

Adobe Systems Incorporated  
345 Park Avenue  
San Jose, CA 95110-2704  
USA  
[www.adobe.com](http://www.adobe.com)